

別表第1 評価領域及び行動プロセスに関する着眼点

※「着眼点」は、職務を遂行する上で通常必要とされる水準を例示したものである。

教頭

評価領域	着眼点
I 学校経営の改善及び運営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・「目指す学校像」を踏まえ、学校の現状を分析して課題を明確にし、問題意識を持って意欲的に学校経営に取り組み、校長の目標の実現のため具体的な方策を実施・検証している。 ・校長を助け、円滑な学校運営を行い、組織として十分機能を発揮させ、教職員の学校運営に対する参画意識を高めている。 ・校務分掌は、教職員の資質・能力、経験等を生かし、適切に組織活用がなされている。 ・心理的安全性を高め、主体的に課題を解決しようとする組織風土の醸成を図っている。
II 開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の目標や取組を関係機関、保護者、家庭、地域等と共有して学校運営に対する参画意識を得て、連携・協働を図っている。 ・教職員を指導して、教育活動について積極的に情報発信している。 ・開かれた学校づくりに意欲的に取り組んでいる。
III 施設・事務等の管理及び予算運用	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動を円滑に行うため、教職員を指導して、施設・設備の管理、諸帳簿の整備、文書等の発行・管理を適切に行っている。 ・学校の特色化のため、予算の編成を工夫し、効果的な運用を行っている。
IV 教育計画の年度の重点目標及び学習指導、進路指導、生活指導、特別活動などの教育計画の実施・評価・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員を指導して、年度の重点目標達成に努めている。 ・学習指導要領等に基づいて、地域や学校、児童生徒の実態に即し、創意を生かした教育課程を編成、実施している。 ・学習指導、進路指導、生活指導、特別活動などの教育計画の適切な立案、円滑な実施のために指導・助言及び評価を行い、組織的・計画的に質の高い活動へと改善・更新させている。
V 教職員の指導育成及び勤務状況の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員との円滑なコミュニケーションを図り、能力等を十分に把握し、自律的な成長が図れるように適切に指導・育成している。 ・教職員の勤務時間の管理をはじめ、適正なサービス管理、業務量管理及び健康管理に努め、コミュニケーションを図るとともに、各教職員のワークライフバランスの推進を考慮した適切な指導・助言を与えている。 ・教職員の共通理解を深めながらチームワークづくりを推進し、学校の教育力を最大限発揮できる職場づくりに努めている。 ・教育公務員として、高い倫理感と自覚を持ち、規律の遵守や公正を重んじた行動をとっている。